

様式 1

平成 2 8 年度ユニバーサルデザイン ( U D ) 教育の取組

1 学校名	鳥栖市立鳥栖小学校		
2 所在地	鳥栖市元町1162		
3 校長名	楠 修一郎		
4 学級数 児童生徒数	26学級 678人	5 実施学年 児童生徒数	1～6年 678人

6 取組のねらい

教科「日本語」において2, 4, 6年生取組のねらいについて述べる。

学習の過程が分かるように、鳥栖っ子タイム・めあて・教科書の資料・やってみよう

【体験】・振り返りタイムの過程を掲示した。(2年生)

児童が俳句の意味をイメージしやすいように、電子黒板にも大きく映し出し、どの席の児童からもよく見えるようにした。また、児童の俳句作りの際、活動ごと、材料ごとなど箱に分けて用意しておき、児童がすぐに選べて活動にとりかかりやすいような手立てをとった。(4年生)

活動内容をイメージしやすいものを提示することで、児童が興味・関心をもって取り組めるようにした。(6年生)

7 取組の実際

(1) 第2年の取組

児童が学習に集中しやすく、だれもが安心して学習できる教室環境づくりに努めている。

見通しをもって活動するために、学習過程を示すカードを掲示したり、音声のみの説明に頼らず、図や絵を積極的に活用したりしている。また、教室前面の壁には掲示物を排除し集中を阻害する要因を極力減らすようにしている。



(2) 第4学年の取組

学習の中で、画像が重要な手立てになる場合は、電子黒板を使い、最大限に拡大して提示している。また、児童が選択して使うカード入れは、板書と関連付けて色分けしたものを使った。



(3) 第6学年の取組

礼儀や作法を体験させるために、各グループで道具やキーワードを作成して



「道」がつく文化について理解を深めることができた。

## 8 取組の成果と課題

学習の過程が明確になり、言葉かけを考える際、子供たちにもわかりやすかった。

(第2学年)

視覚的にとらえやすいように工夫して提示したが、情報量が多かったようだ。より精選したり整理したりする必要がある。具体的な道具や用具を活動ごと、材料ごとに分けていたことは、児童の自分なりに考えて意欲的に活動することにつながり、有効であった。(第4学年)

児童がイメージしやすいものを選ぶことで、知らなかったことを視覚的に学習することができた。(第6学年)